

【報告】

第3回 子どもの禁煙研究会

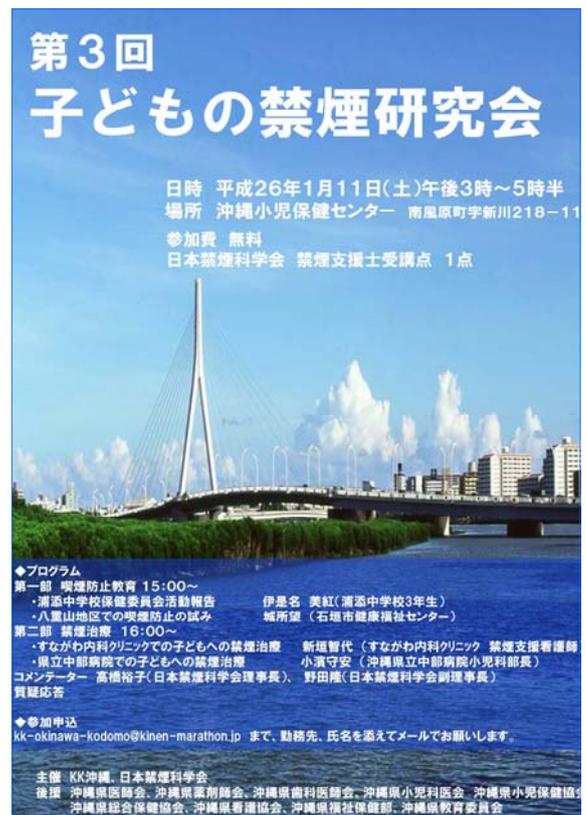
2014年1月11日

【研究会】

- ◆開催日：2014年（平成26年）1月11日（土）
- ◆場 所：沖縄小児保健センター
- ◆主 催：日本禁煙科学会・禁煙健康ネット（沖縄）
- ◆後 援：沖縄県医師会、沖縄県薬剤師会、沖縄県歯科医師会、沖縄県小児科医会、沖縄県小児保健協会、
沖縄県総合保健協会、沖縄県看護協会、沖縄県福祉保健部、沖縄県教育委員会

【主たるプログラム】

- ◇第一部
 - 浦添中学校保健委員会活動報告
伊是名美紅（浦添中学校3年生）
 - 八重山地区での喫煙防止の試み
石垣市健康福祉センター 城所望
- ◇第二部
 - すながわ内科クリニックでの子どもへの禁煙治療
すながわ内科クリニック禁煙支援看護師 新垣智代
 - 県立中部病院での子どもへの禁煙治療
沖縄県立中部病院小児科部長 小濱守安
- ◇コメンテーター
 - 日本禁煙科学会理事長 高橋裕子
 - 日本禁煙科学会副理事長 野田隆
- ◇質疑応答



第3回 子どもの禁煙研究会

日本禁煙科学会HP（子どもの禁煙研究会のページ）

http://www.jascs.jp/kodomo_kinen/kodomo_kinen_index.php

第3回子どもの禁煙研究会 抄録集：「禁煙科学 vol.8(14), 2014.01」として発行済

日本禁煙科学会HP（禁煙科学2014のページ）よりダウンロード可能です。

http://www.jascs.jp/kinen_kagaku/kinen_kagaku_2014.html

【ご挨拶】



第3回子どもの禁煙研究会の開催に当たって

沖縄県立中部病院・ハワイ大学卒後臨床医学研修事業団

ディレクター 安次嶺 馨

子どもに焦点を当てた禁煙研究会は、まだ発足したばかりですが、熱意あるメンバーが集い、子どもをタバコフリーの環境で育て、健康な大人になるよう支援するための勉強会として定着しつつあります。かつて、日本一の長寿県として知られた沖縄県は、生活習慣病が蔓延する日本一の肥満県となり、壮年者の健康状態は日本で最も劣悪なグループに属します。

最近のNew Engl J Med (December 5, 2013) に興味深い記事が出ていました。巻頭のPerspectiveに「肥満予防はどれだけ早い時期に始めるべきか」という論考です。アメリカをはじめ世界中に子どもの肥満が蔓延し、その結果、Ⅱ型糖尿病の発症が将来10億人を超えて、地球規模の健康問題を起こすと警告しています。

Gillman & Ludwig (Harvard大学、Boston小児病院) らは、肥満をきたす周産期・乳幼児期のリスクファクターとして、次の4つを上げています。

1. 妊婦の喫煙
2. 妊婦の体重増加過多
3. 母乳栄養<12ヶ月
4. 乳児期の睡眠時間<12時間/日

です。

詳細は省きますが、妊婦の喫煙が子どもの7~10歳の時点で、肥満のリスクファクターとして大きな意味を持つので、彼らは明確に述べています。「Pregnant women should not smoke.」。すなわち、子どもの禁煙とは、子育て世代の若者たちの禁煙運動にはかなりません。

禁煙活動のエネルギーの多くは、成人に向けられています。タバコ病の発症に近い人々の病気を予防すると言う優先順位から、これは当然のことです。子どもの喫煙予防活動に取り組む人々は未だ少数派ですが、学校での喫煙予防教育がしだいに重視される近年の傾向は喜ばしい限りです。

私たちは、子どもの概念を胎児まで広げ、子どもの時期から喫煙予防活動を行うために、ここ沖縄で「子どもの禁煙研究会」を立ち上げました。沖縄から全国に向けて発信し、子どもたちを生活習慣病から守り、健康長寿を全うできるよう地道な活動を続けていきたいと思います。

「命(ぬち) どう宝」、そして「童(わらび) どう宝」

【開催報告】

1/11沖縄小児保健センターにて「第3回子どもの禁煙研究会」は盛会をもって無事終了いたしました。合計66名ご参加いただきました。年始めの3連休初日という貴重な時間にも関わらず、多くの皆様にご参加いただきありがとうございます。今回はとくに、学校の先生方にも多くご参加いただきました。大変ありがとうございました。以下内容について簡単にご報告いたします。

プログラムは今回も、防煙教育と禁煙治療の2本立てでした。

現役中学生の伊是名美紅さんによる保健委員会の活動報告の発表は本当にすばらしく、終了後アンケートでも絶賛の声を多数いただきました。堂々とした話しぶり、お見事でした。校内の吸い殻ひろいやポスター作製、校内でのタバコについての講演、最近では地域や小学校でも講演活動をしているとのこと、すばらしい社会貢献です。卒業前にベニヤ板で頑丈なポスター作りをしているとのこと、がんばってほしいと思います。

ここ浦添でもピア活動が展開されていることをうれしく思いました。ここまで生徒を導いてこられた養護の宜保先生はじめとする浦添中の先生方にあらためて敬意を表します。

城所望先生の八重山の活動報告は、楽しい中にも内容は深く、学ぶところが多くありました。とくに全国に先駆けて取り組まれたピア活動については全国的に有名ですが、今回あらためて多くの皆様と聞けてよかったです。皆様とても参考になったのではないのでしょうか。「楽しくて為になる」健康“共”育、“楽”習とのお言葉、なるほど！うまいですー。貴重なご報告ありがとうございました。

すながわ内科クリニックの新垣智代看護師さんからは、2例の症例提示がありました。いずれも学校の先生からの紹介で、一例は学校がしっかりかかわってうまくいったケース、もう一例は、学校との連携がなく、支援体制が十分に築けなかったケース。貴重な症例提示をありがとうございました。医療機関だけの対応では子どもの禁煙維持は困難であり、家族、友人、学校側との連携と継続的な支援が必要との大事なご発言ありがとうございました。連携はなかなか難しいのが現状と思いますが、この研究会がその顔と顔のつながりの場になっていけばうれしいと思います。

県立中部病院の小濱守安先生からのご発表では、乳児健診の成績や妊婦さんの調査結果から、10代で親になる人たちの喫煙歴の高さが提示されました。安次嶺馨先生のごあいさつ文にもありましたとおり、子どもへの禁煙支援、防煙教育は、次世代へつなげる重要な仕事なのだとあらためて感じます。

貴重な症例もご提示いただきました。保護者と本人と個別に面談するなど先生がじっくりと患児に向き合っておられること、タバコに関するよろず相談的な体制になさっているということ、「保護者の禁煙が子どもの禁煙につながる」感銘をうけました。

最後に野田先生からのコメント、害でおどす指導では限界があること「私の肺はまだ黒くない」印象的なスライドでした。

質疑応答では、多くの質問に対し、本日の演者のほか、高橋先生、野田先生からもわかりやすくお答えいただき、すぐに使えるノウハウを、持ち帰ることができたと思います。あっというまの2時間半でした。

以上簡単ですがご報告とさせていただきます。次回は5-6月ごろを考えています。改めてご案内いたしますので、よろしく願いいたします。

(報告者：徳山クリニック 永吉奈央子)

【参加者アンケート】

◇集計結果(回答者41名、回答率62%)

Q：今回の内容はいかがでしたか？

A：とてもよかった 33名/良かった 7名/ふつう 1名/あまり良くなかった 0名/良くなかった 0名

◇自由記載

1. 全般

- ・初めて参加しました。主に幼児健診に関わっている歯科医師ですが、こどもの喫煙・妊婦の喫煙の状況がわかりとても良かったです。
- ・教育現場の協力を得るための工夫も必要と思うし、PTA関係の参加、発表も次年度たのしみにはしています。
- ・3回目参加していますが、回を重ねるにつれ色々な情報、活動を知る機会になり、学び多い充実した時間を過ごしています。
- ・とてもきれいな会場なので感激しました。内容も充実しありがとうございました。次回も参加したいです。
- ・子どもの禁煙研究会に初めて参加しました。活発な活動がされているのを知ることが出来たので勉強になりました。

2. 教育

- ・今日の研究会は、学校・生徒さんたちの取り組みを知ることができてすごく良かったです。子どもたちを中心に禁煙の輪が広がっていくように、大人たちでサポートできるといいですね。
- ・浦添中学校の発表にとっても感動しました。自分たちのこととして取り組んで他の仲間たちへのサポートする姿には大人も学ぶものがある気がしました。又、全体を通し子供が健やかに成長するための環境づくりの大切さを痛感しました。
- ・浦添中学校の発表がすばらしかった。敷地内禁煙の施設でも禁煙マークの下で喫煙している人を見かける。川柳のポスターを貼る方法などすごく参考になった。八重山の生徒さんの活動もすばらしく参考になりました。
- ・中学生の発表や感想が聞けたことがとても良かった。ありがとうございました。お疲れ様でした。

3. 禁煙支援

- ・こどもの禁煙の取り組みがもっと広がり、一人でも多くの子供が禁煙成功につながれるように協力していきたいと考えている。
- ・未成年の禁煙支援に対する課題はどこでも一緒だとわかった。広い支援の門戸をもつべきか、狭くしてフォロー率を上げるべきかは大事なポイントとして持ち帰りたい。
- ・こどもの禁煙に学校と病院が連絡を取り合っている結果をだし、ピアエディケーションの取り組みまで広がっていることにとっても感動しました。大人自身が子供たちから教わることも大切ですね。

4. 要望・展望

- ・各地域ごとに禁煙支援がどのように伝えているか紹介してほしい。
- ・学校関係者へは、教育庁保健体育課を経由して、現場に1ヵ月前についていると参加者増えるかもしれません。
- ・学校ごとに禁煙支援サポーターなどを設置するようなことも考えていければいいと思いました。
- ・地域での取り組みが大切であるとする。市町村で取り組みことはないのですか？
- ・吸い始める前の小学校またそれ以前の子供たちへの教育が必要だと思います。・タバコが手に入りやすい環境(コンビニ前で大人に買ってもらう)等、家庭以外でも簡単に取得できるのをどうにかしないと、家庭、学校以外の原因もあると考えさせられました。